綿密な計画に基づき，凄い量のことをこなした房総巡検で，4日間でヘトヘトになってしまったが，限られた日数であれだけ勉強ができたのもこの計画をたてて下さった浅井先生のお蔭であろう。巡検後，厳しそうで実はとても優しい浅井先生の株が，我クラス内で急上昇したことはここに書くまでもない。

初めての巡検で印象が強いという事もあるが，とにかく大学1年の最も心に残った楽しい思い出となった4日間だった。

（浅井先生指導　2年　高橋　圭子）

栃木巡検（9月5日～9月8日）

9月5日午前8時。夏休みの終止符を打つべく，私達15人はいわゆる巡検スタイルで上野駅ホームに集合した。斎藤先生の指導のもと那須野・鶏頂山・栗山村方面への3泊4日の巡検である。総合テーマは海抜高度の上昇に伴う営農類型の変化，平地林から山村までの生活様式の変化，農村景観の観察の3つであり，フィールドで新鮮に感じたことを大事にするということが方針となった。西那須野着。郷土資料館でスライドを見て，当時の那須野原の開発事業の一端を知る。開発の鍵となった那須疏水を確認しつつ千本松農場を抜け，日の出開拓村にやってきた。整然とした広い耕地，一面のトウモロコシ畑，養豚業が印象的である。ここでは農協の方から次のようなお話を伺った。今日の大型機械を導入した酪農は高収入をあげることができて後継者も定着してきたこと。しかし，それまでには苦節30年の歩みがあったこと。特に先代が飲まず食わず，月のあかりで開墾したことを知ってほしいということである。この日は温泉町塩原に泊る。

9月6日。まずは塩原での地図作りである。あらかじめ与えられていた概略図に班別で温泉集落の土地利用景観の調査結果を記入。見て即記入する癖をつけることが大事とのご指導であった。塩原を出て鶏頂山へ。一面に広がる野菜畑―キャベツ，ニンジン，ダイコン，イチゴ，ハクサイ等。ここでも班別行動をとり聞き取りを含めた土地利用の調査を行なう。また地図作りである。夕食後一日の調査結果を全員でまとめ地図を完成。鶏明荘に泊る。

9月7日。この日は栗山村で，山村での生活把握に焦点が置かれた。栗山村役場で観光課長からお話を伺い，山村における諸問題を認識する。午後は平家の落人村という伝説のある野門（のかど）で，集落景観と土地利用の観察を行う。茅葺の屋根が村全体の雰囲気にしっくり合っている。しかし，こんな山奥の村でも観光化の波は防ぎきれないとみえて，民宿としての近代的な建物が茅葺と対照的に共存している。畑には，果菜類が自給用に植えられていたが，中世の作物という説明のあった荏胡麻（えごま）が記憶に新しい。野門で民宿に泊る。民宿のご主人は熟練した猟師で，夕食後に豊富な経験をもとに私達に実に興味深い話をしてくださった。かってNHKの取材に応じたとのことで話し上手であった。イワナ，さんしょう魚のとり方，キノコ狩り，山鳥・野うさぎ・熊・てん・鹿・ムササビ等の話。中でもさんしょう魚の活動が湿度と密接な関係をもっていること，その生命力の強さ，薫製のさし方の話や，人

とクマが出会った時のクマの反応の話― 負傷しているクマと子連れのクマ以外は非戦闘的である―等は，日本版シートン動物記のようだった。

9月8日。最後の日は自由観察である。民宿での聞き取りや温泉集落の調査など，みんな個性豊かに興味深い調査を行なった。調べようと思うことは案外多いようである。短時間ながら自由な行動をとれたことは有意義だったと思う。実際に歩いて土地の人と接触できることは，書物からは得られない妙味といえよう。今回の巡検では調査に時間的余裕があったこと，夜は斎藤先生を囲んでみんなで和気藹藹と楽しい時間が持てたことが良かったと思う。この巡検が私達の地理学を学ぶ上でのステップになれば幸いである。

（斎藤先生指導　2年　宮野　佳子）

巡 検 ―富士をたずねて―（10月3～4日）

10月3・4日は，私達1年生の始めての（八王子の1日巡検はあったが）巡検であった。

1日目は生憎の雨で，集まった1年生の顔にも緊張の色が見られる。今回の参加者は，20人＋院生の方お2人である。指導の先生は浅海先生である。

新宿から中央高速を抜け，1時間程で，そろそろ車窓観察開始。桂川段丘・扇山などの観察。揺れるバスの中で，熱心に？メモをとる姿が見られた。しばらく行くと，猿橋につき，本格的な観察開始となる。このころは，雨がいっそう激しくなり，桂川の流れもかなり急であった。狭い道で一列になって先生の説明を聞くが，雨音と川の音でかきけされ，メモも雨に流されて，なんとも悲惨な状況であった。猿橋を出発し，少したつと，道の両側にカラマツ林がひろがっている。この付近が剣丸尾である。ここを抜けて，五合目につき，昼食をとる。かなりの寒さで，みなぶるぶるふるえている。ドライブインの横で，小御岳のなりたち，スコリアなどの説明を聞き，上部にひろがる森林限界の様子や雲の動きを観察。そのあと小御岳神社に立寄る。新しいきれいな神社であるが，この付近は完全に観光地化していて，山にいるという感じが全くしない。巡検の移動には便利なスバルラインであるが，富士山が，その美しさと存在感を失うことがあってはならないと思った。

次に西湖畔の足和田村（根場部落）に行った。根場部落は昭和41年の台風25・26号による土石流で全壊した場所であり，復旧の後も，人々が戻ってこなかった場所だ。荒涼とした光景にも自然の厳しさが表われていた。現在は，人々は近くで新しい根場部落をつくり，民宿村として発展している。

根場部落から10分位で，今夜宿泊するホテルにつく。部屋割りをしたあと夕食をとり，7時から，今日の観察事項に関する熱心な質問が出て，なかなか有意義であった。第1日目も無事終わり，皆もそれぞれの部屋にひきあげて，トランプ，おしゃべり，テレビ映画，今日のまとめをしている。とはいっても，中学・高校時代の修学旅行のときのようなわけにもいかず，明日のために，早めに就寝した部屋もあったようである。第1日目は，雨にたたられたが，初めて巡検に来た私達には，猿橋の河岸段丘，桂川の濁流．熔岩の柱状節理，丸尾，スコリア，根場など，すべてのものが，興味をひき，